

下法七ヶ条之事

- 一、盲眼
- 一、腫出
- 二、虫出
- 一、筋休
- 一、風旋
- 一、針亡
- 一、盲眼と云は、俄にまなこ白くなり、つぶるる也、薬に云、一、土龍のはい、一、はつ少七度毒をとりて
- 一、とびの糞のしろみ細抹して
- とり、口伝、治法云、かふらなを
- 目のなかに切て薄く氣(け)
- づりてをし入、手綱にてゆいておくもよし
- 腫物出スト云、俄にはれ物出る也
- 一、薬にいはい、一、はつ油を取て
- 一、土器にてから巡にいりて、三粒
- 一、えんせう半分一、くんろく半分細抹して有口伝、同治法云
- 一、あかにしのはいを酔にてねり合て付べし
- 一、瘡出スト云は、俄にかき出き煩也
- 一、薬に云一、鶏の糞、一、たたらびのミ、一、はす等分に含有口伝
- 同治法云、一、ごはいし、一、赤にしを付て細々(再々・度々)いんごうを飼べし
- 一、虫出すと云ハ、俄に腹中なやミ、腹をかミ、おきふし煩也
- 一、薬に云、一、鶏のふん、一、たたらび子コノ糞等分に合、有口伝、同治法云、一、芹のしるを少いれ、かき立て細々飼べし
- 一、きんきうと云ハ、俄に筋つり、くびりぢれ、つくみを病也。薬に
- 一、云、一、あさのミ、一、ねこのふん、一、すいぎんろう少、細抹して有口伝、治法ニ
- 一、一、さんしこ、一、元角、一、どくだミ、是三
- 一、三や(夜)せんじ(煎し)の仕り候て、二三度かう
- 一、ふうせいと云ハ、俄にぜんそくをし、内落をふく也。薬に云、一、草えん
- 一、ふつきやう、一、やうはい、一、ういきやう、一、すいぎんろう、細抹して、こせう
- 一、少入、口伝有、同治法云、一、山のいもおろして酒にてかうべし
- 一、針亡と云ハ、はりめ俄にはれ
- 一、破煩也、薬に云、一、はつのはん
- 一、ミやう少合て、針めにぬるべし
- 一、口伝にあり、同治法云、一、黒かね
- 一、のすりくずを、猪のあぶらに
- 一、押合、ふしかねにてゆるめて凡
- 一、治する也。口伝に、一、くろひばりも
- 一、さめ馬あり、口伝

桑嶋新右衛門尉 仲綱

鈴木主膳介

道重

水沢清五郎

文禄四乙未

二月五日

実秀

青柳与六郎殿

進覧